

大阪府総合体育大会女子準決勝①戦評

令和2年10月10日	A①	10:00	高石市立高南中学校	8	18	11	11		48
			東大阪市立布施中学校	7	3	11	8		29

高南4・7・9・11・13、布施4・5・6・7・8で試合スタート。序盤、高南は13・9が中心となり得点し、対する布施は8がドライブインから得点する。両チームともディフェンスとルーズボールを頑張り合い、高南1点リードで1Q終了。

2Qスタートも同じメンバー。高南は4の連続得点で流れをつかもうとする。布施は4・8がオフenseリバウンドを取るが、なかなか得点が奪えない。その間高南は4が攻め続けリードを広げる。布施はタイムアウトを取り4のポストアップから突破口を開こうとするが流れを変えられないまま、26-10高南リードで前半終了。

後半、高南4・7・11・12・13、布施4・7・9・11・13でスタート。布施6の3ptを皮切りに4のリバウンドシュート、9のファーストブレイクの得点で点差をつめていく。高南は7・12を中心にトラジションの速い展開で攻めていき、両者互角の点の取り合いで3Q終了。

4Qなんとか追いつきたい布施は4Q立ち上がり9の3ptで勢いに乗ろうとするが、高南は7がドライブで切り込んでアシストを量産。自らも得点し、突き放していく。両チームとも最後までディフェンス、ルーズボール、リバウンドを争い続けたが、48-28で高南が勝利した。

女子準決勝②戦評

令和2年10月10日	B①	10:00	樟蔭中学校	7	12	13	10		42
			大阪薫英女学院中学校	6	4	11	12		33

順調に勝ち上がってきた両チームだが、出だしは互いに硬さがあり、落ち着かない展開となり、約2分間ノーゴールであった。1Q残り5'09に白は7のミドルシュートで先制。黒は4から5の合わせですぐさま得点し返す。互いにゆずらない状況で、7-6白リードで1Q終了。

2Qは白4のシュートを皮切りに連続得点を重ね、黒はたまたまタイムアウトを取るが、白の勢いは止まらず、連続10得点の猛攻となった。その後、白も4を中心に得点を返していくが、思うようにシュートが入らず19-10白リードで前半を折り返す。

3Qに入っても白の勢いは止まらず、5が3Qだけで11得点の活躍をみせる。黒は3Qで3本のバスケットカウントで食らいつくが、32-21と白がリードを広げ最終Qに突入する。

4Qでも白は5の連続得点でどんどん差を広げていくのに対し、黒は3ptシュートで追いつこうとするが、1試合通してリングに嫌われ続け、思うように得点を重ねることができなかった。終盤、黒が意地を見せ追い上げるが白リードのまま試合終了。白5が27得点と活躍した。

女子決勝戦評

令和2年10月10日	A③	13:00	高石市立高南中学校	11	4	19	11		45
			樟蔭中学校	19	8	6	8		41

高南20・23・25・27・29、樟蔭4・5・6・10・11で開始。立ち上がり樟蔭5の連続得点でリードを広げようとする。対する高南は20の3pt、ドライブインで対抗する。両チームトランジションの速い展開の中で樟蔭11がコーナーから3ptを連続で決め、4がスティールからのレイアップを決めたところで高南はタイムアウトを取る。しかしそのまま19-11樟蔭リードで1Q終了。

2Q、高南は27と22を交替させてスタート。高南は23のジャンプシュートで勢いに乗ろうとする。対する樟蔭はシュートは落ちるものの4・5のオフenseリバウンドでしぶとく得点していく。高南は20がコントロールしつつ、自ら果敢に切り込んでいくが、なかなか得点は伸びず、逆に樟蔭はゴール下のパワープレーでじりじり引き離していき、27-15樟蔭リードで前半終了。

後半は2Qと同じメンバーで開始。立ち上がり高南23のジャンプシュートを皮切りに20のスティールからレイアップ、29のドライブイン、25の速攻で点差を一気に5点差まで縮めたところで樟蔭はタイムアウト。樟蔭は12を投入し流れを変えようとするが、高南23のバスケットボールカウント、20の3ptで一気に点差をつめていき、残り10秒、高南29のレイアップでついに逆転し、34-33高南リードで3Q終了。

勝負の最終Q、メンバーは3Qと同様。高南20のレイアップで先制。樟蔭は11のフリースローで反撃、残り4分で36-36の同点。樟蔭6のドライブ、12の3ptが決まったところで高南がタイムアウト(41-36)。タイムアウトあけ、高南20の3pt、23のレイアップで同点に追いつき、残り50秒、高南25のオフenseリバウンドからの得点。残り20秒高南23のジャンプシュートが決まり、45-41で高南が逆転勝利をおさめた。

女子三位決定戦戦評

令和2年10月10日	B③	13:00	東大阪市立布施中学校	7	7	7	13		34
			大阪薫英女学院中学校	16	13	8	20		57

布施4・5・6・7・8、薫英4・5・6・8・12、両チームハーフマンツースでスタート。布施は8のシュートで得点する。それに対し薫英は4のドライブや6のミドルシュートで応戦し、その後も速攻やポストアップから得点を重ねリードを広げていく。布施は薫英の激しいディフェンスに苦しみ、1Qを7-16で終える。

2Q、薫英12のリバウンドシュートからスタート。薫英はポストプレーからのあわせを中心に攻撃を組み立てていく。ディフェンスを修正したい布施はたまたまタイムアウト。その後、お互いに3ptシュートやドライブから得点を重ねていくが、なかなか点差は縮まらない。前半終了間際、薫英5の1対1からの連続得点が決まり、薫英が15点リードして前半を終了する。

3Qに入り、布施は7のシュート、6の3ptと薫英を追いかける。薫英も冷静に5・6のシュートで得点する。布施は激しいディフェンスから速攻、相手のファウルを誘い、8がフリースローで得点する。対する薫英も5の速攻、4の3ptと得点し、一進一退の攻防を繰り返す。3Qを21-37薫英リードで終了する。

4Q、薫英6の3ptシュートからスタート。なんとか点差を縮めたい布施も8が積極的にドライブを仕掛けるが、なかなかシュートが決まらない。薫英はメンバーチェンジをしながらディフェンスからの速攻が決まり始める。布施もルーズボールやリバウンドを頑張りながら粘るが、最後まで薫英の力強さが勝り、34-57で薫英が勝利した。

大阪府総合体育大会男子準決勝①戦評

令和2年10月10日	A②	11:30	岸和田市立桜台中学校	14	14	13	12		53
四條畷市総合体育館			東大阪市立小阪中学校	5	10	21	19		55

桜台の4の3ptでゲームスタート。その後も桜台4・6のドライブインで得点を重ねる。一方小阪は8のゴール下のシュートで食らいつく。14-5桜台リードで1Q終了。

2Qに入ると小阪5・6のゴール下のシュートや7の3ptで反撃するが、桜台5のリバウンドシュートやミドルシュートで流れを渡さない。28-15桜台リードで前半終了。

後半に入り、小阪は積極的なディフェンスから8のゴール下連続得点で点差を縮める。桜台も4の3pt、6の3ptやドライブで得点を重ねる。3Q終了間際に小阪はダブルチームからのスティールで連続得点し、41-36桜台リードで最終クォーターへ

4Q立ち上がり、お互いシュートが決まらない。均衡を破ったのは桜台4の3pt。しかし小阪は激しいディフェンスから8の力強いシュートで連続得点。残り3分で小阪が逆転。その後も流れは変わらず小阪は8のゴール下、7のドライブで得点する。残り21秒小阪7のスティールからの速攻に対し、桜台はたまたまファウル。アンスポーツマンライクファウルとなり勝負あり。後半激しいディフェンスから流れを作った小阪が勝利した。

男子準決勝②戦評

令和2年10月10日	B②	11:30	吹田市立山田中学校	7	9	14	10		40
四條畷市総合体育館			大阪市立巽中学校	19	12	10	8		49

吹田山田4・5・9・14・18、巽5・6・7・11・13で試合スタート。ハーフコートマンツーマンでスタートし、出だしはお互い硬さがあり、シュートまでいくがなかなか決めきれない状態が続く。巽の6・7の速攻での連続得点からリズムを作り、7-19で1Qを終える。

2Q開始早々、吹田山田4の3ptで得点を決めるが、巽の7の1対1で連続得点。吹田山田すかさずタイムアウト。タイムアウト後すぐに8・18のスティールから連続得点に成功し、巽たまたまタイムアウト。その後おたがいディフェンスをがんばり、16-31巽リードで前半終了。

後半、吹田山田4・5・8・9・18、巽5・6・7・11・13でスタート。吹田山田5の1対1、3ptで得点。巽5・7の3ptで応戦する。両チームとも得点を重ねるが、吹田山田4のバスケットボールカウント、18のドライブで点差を縮めて30-41で3Q終了。

4Q開始早々、巽は7・14のゴール下、連続3ptでつき離しにかかるが、吹田山田もねばりを見せ、18の連続得点、5のゴール下で食らいつく。残り2分で7点差まで点差を縮めたが、巽が終始試合展開を優位にすすめ、最終40-49で決勝進出することになった。

男子決勝戦評

令和2年10月10日	A④	14:30	東大阪市立小阪中学校	12	10	9	10		41
四條畷市総合体育館			大阪市立巽中学校	14	14	15	22		65

小阪4・5・6・7・8、巽5・6・7・8・13でスタート。両チームともハーフマンツーマン。小阪は8の1対1やバックコートでのスティールで連続得点し、巽がタイムアウトで流れを切る。巽は粘り強いディフェンスから6・7を中心としたランニングプレーで対抗し、12-14巽リードで1Q終了。

2Q、小阪がドライブを中心とした1対1から得点し、流れに乗ろうとするも、巽の7を中心とした速攻や速いパス回しからの5・7の3pt、13のポストアップなどで流れを譲らず、22-28巽リードで前半終了。

3Q、巽は攻守ともに足を動かし、6・7のドライブやキックアウトからの3pt、ポストアップなどバランスの良いバスケットで得点を重ね、引き離しにかかる。一方の小阪は5・6・8が1対1をししかけるも決め手を欠き、タフショットが外れてリバウンドからブレイクを決められる苦しい展開が続き、31-43巽リードで3Q終了。

4Q、巽の勢いは止まらず、運動量の高いチームディフェンスでターンオーバーを誘発し、ブレイクから大量得点につなげる。小阪はリバウンドやルーズボールなどを粘りながら6が得点し、応戦するが、1試合攻守にわたって走り切った巽が41-65で優勝を決めた。

男子三位決定戦戦評

令和2年10月10日	B④	14:30	岸和田市立桜台中学校	16	9	8	10	6	49
四條畷市総合体育館			吹田市立山田中学校	14	4	12	13	2	45

桜台4・5・6・7・8、吹田山田4・5・9・14・18でスタート。立ち上がり桜台6のドライブからの得点。続いて桜台7がカウントワンスローをもらい、吹田山田がタイムアウト。その後、桜台は4・5・6のアイソレーションや速攻で得点を重ねる。吹田山田も18のドライブからの連続得点やアウトサイドで取り返し、両者高確率でシュートを決めあい、16-14桜台リードで1Q終了。

2Q、桜台は1Qと同じ、吹田山田9・10・11・13・18でスタート。両チームのファーストシュートは得点につながらず、どこか重い立ち上がりであった。その後、桜台8の速攻や6の2pt、吹田山田18のトップからの1対1など、流れが変わる場面もあったが、両チームリングに嫌われ、残分1まで4-4と苦しい時間が続いた。残り30秒で桜台5が3ptとリバウンドシュートを決め、25-18桜台リードで前半を終えた。

3Q、桜台は変わらず、吹田山田4・5・9・14・18でスタート。後半立ち上がり、吹田山田18のステップインからのフローターが決まる。対する桜台は4が3ptを決め、応戦する。吹田山田はディフェンスで5がテイクチャージを取り、流れを生み出す。桜台は15のバスケットカウント、7の3ptで得点するが、吹田山田はその間に10得点を積み上げ、33-30桜台リードで3Qを終える。

4Q、両チームアウトサイドからのシュートを決めあい、お互いに点を重ねていく。残り2:25吹田山田18のドライブで同点に追いつく。直後に桜台4がフリースローを1本沈め、簡単には追いつかせない。しかし吹田山田は18・5が連続スティールを決め、一気に逆転。3点差とした。このまま終了するかと思われたが、残り5秒桜台4のステップバックからの3ptが決まり同点。延長戦へ。

勝負の3分間がスタート。吹田山田4がコーナーから得点し、リードを奪う。対する桜台も5がトップからのドライブを押し込み、すぐさま同点に追いつく。互いに簡単には得点を許さず、息を飲む攻防が続くゲームを決めたのは桜台6が右サイドからディフェンスをかき分け、ドライブから得点。最後は桜台がボールコントロールを確実にし、4のレイアップでゲームを終えた。